

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775802214		
法人名	有限会社 永世会		
事業所名	グループホーム 成寿苑 (1階)		
所在地	大阪市平野区平野東4丁目1-26		
自己評価作成日	平成23年4月18日	評価結果市町村受理日	平成23年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775802214&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年5月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【理 念】	<ul style="list-style-type: none"> ・できる事は自分でやります ・私は私も大切だけど 共同で生活しています ・笑ってばかりいられない 怒る時も泣く時もあります ・社会の中の地域で暮らします ・私にとっての『普通の暮らし』 	<ul style="list-style-type: none"> ・できない事は協力します ・迷う事あっても大丈夫 まかせてください ・「いってらっしゃい」「おかえりなさい」 いつも笑顔で ・教えて頂く事たくさんあります ・成寿苑には『あなた』が必要
-------	--	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、利用者の立場に立って理念を考え、職員がそれを支えていく為の目標を自然な言葉にした理念を掲げケアに取り組んでいます。職員は家族のように関わり、利用者同士の仲が良く、毎日和やかに過ごされています。ゆったりとしたリビングのソファで会話を楽しんだり、庭での家庭菜園、広い芝生での日光浴、玄関前の広場での地域の方との交流など、街中にありながら広い敷地が利用者の生活を有意義なものにしています。早い時期から地域の理解を得て情報をもらい、行事にも積極的に参加し高齢者や小・中学生との交流も盛んに行われています。職員間の関係も良好で、話し合いの場が多く、管理者と代表は職員の提案に耳を傾け、いつでも相談にのる姿勢で関わり、職員の安心感と利用者への思いが、より良いケアと利用者の求める「普通の暮らし」に繋がっているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念として、運営者のごあたりまえの身近な思いを表わし、掲げている。『理念』について深く考え入社時研修時にも共有すべく力を入れている。「その方にとっての普通の暮らし」を常に意識し目標にしている。毎朝の朝礼時に全員で唱和し、申し送り・ミーティング・苑内研修時にも事あるごとに立ち返り共有し実践に向けて取組んでいる。	理念は、職員一人ひとりが自身の言葉で挙げた目標を皆でまとめて作りました。利用者の立場に立った思いと職員の理念を並べて掲げ、会議や研修で内容の確認や振り返りを行い、日々のケアが理念に基づいた同じ方向性で実践できるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人員として日常的に交流している	日常的な買い物や散歩に出かけている中で、挨拶を交わしたり、庭の植木や草花の育て方を教えて頂いたりと気軽に声を掛け合えるきっかけ作りを努めている。地元の祭りや盆踊り大会などに利用者と共に積極的に参加している。地域交流会や地域ネットワークのふれあい喫茶にも積極的に参加している。	回覧板や民生委員から行事の誘いを受け、敬老会、ふれあい喫茶、祭りなどに参加しています。ホームは地域の方々の介護や認知症について相談を受けたり、秋まつりではだんじりの休憩場として庭を開放しています。年一度の小・中学生との交流会もあり、様々な場面を通して学校や地域の方々と交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症や介護についての相談を受けた際には事業所での実践内容や培ってきた成果を伝える取組みをしている。人材育成のため実習生受け入れや認知症キャラバンメイト登録など地域に貢献できる態勢を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	予定行事や活動内容の報告、前会議で取り上げられた検討事項や改善事項の経過を話し合い、活動内容の評価と苑への要望・助言を頂き、参考にさせて頂いている。消防訓練の実施なども会議に盛り込み出席者への実施報告としている。	会議は利用者、家族、町会部長、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加し二ヶ月に一回開催されています。気軽に参加してもらえるよう茶話会形式にし、行事や避難訓練、ホーム状況等の報告、参加メンバーからは質問や行事についての意見があり、情報交換が行われています。会議の開催は毎回家族に案内状を送付し、会議録は玄関に設置し閲覧できるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	健康福祉課のケースワーカーとの課題解決の為の連携は随時あるが、介護保険課との連携は必要以外あまりない。	運営上で疑問点や相談があれば市役所へ電話したり直接出向いて聞いています。ホームの人事異動や状況変化など何かあった場合は区役所へも報告し、連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	随時、身体拘束防止についての話し合いを行い、常日頃から拘束のないケアを心掛けている。疑問があれば相談し合える体制作りを努めている。玄関に関しては常に施錠している状態ではあるが外へ出たい思いをキャッチした場合にはいつでも解錠できる扉である事をスタッフ一同共に心掛け、ご入居者に伝えている。	ユニットの入口は開放され、1、2階の行き来や庭へは自由に出入りが出来るようになっています。玄関は防犯上施錠していますが、利用者が玄関へ行った時は声をかけ、一緒に付き添って出かけています。職員は認知症の研修を行うなかで、認知症を理解し制止しないことが基本姿勢としてしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーフレットを冊子にし、マニュアルとしている。入社時研修に徹底しており、苑内研修にも研修内容として学び、周知徹底を図っている。		

グループホーム 成寿苑 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には活用できる支援を行っている。制度についても積極的に学ぼうと努め、活用に向けての選択肢としても提示できる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項の説明と共に事業所の方針とケアへの取り組み、起こりうるリスクについて、利用者と家族、事業所との共通認識となるように詳しく説明し同意を得ている。解約時にも同様に今後の方針を話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の立場に立った運営やケアができる様、ご様子から思いを察することが出来る様、務めており、その都度、思いに傾聴している。玄関先に『ご意見箱』を設置しご意見を頂ける状況作りに努めている。ご不満やご意見を掘り起こし易い様、一対一の時間を大切にしている。	ほとんどの家族が毎月来苑するため、その都度時間を設け、ホームの状況を話し、意見や要望を聞いています。利用者の意見は一対一の時間を作り聴き出すようにしています。出された意見はカンファレンスで話し合い、改善に向けて取り組んでいます。また行事や面会時に家族同士で話し合う機会を設け、内容に応じて運営推進会議で伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の何気ない会話の中からも意見や提案・要望を聞き出せるよう心掛けている。働く意欲向上に繋がる様に努力している。ミーティング時に意見を出し易い環境作りに努めている。	職員会議やミーティングの他、懇親会など職員同士のコミュニケーションの場を多く設けています。利用者の状態やサービスについて職員が発言しやすく、日常的に多くの意見交換が成されています。管理者は職員と随時面接や声かけを行い、意向を聞いたり、何でも相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持てる働きかけを考えている。資格取得に向けた配慮と支援を行っている。代表者も現場を知るため頻りに苑に来ており、利用者や職員と過ごす時間を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの能力や実績に見合って法人外研修を積極的に受講させ、苑に持ち帰り他のスタッフへ反映させている。苑内研修にてスタッフへ知識共有と日々のケアに繋げていける様、毎月、その時期に必要な周知事項を研修内容として検討・実施。大阪市グループホームネットワーク、平野区グループホーム連絡会主催の勉強会には出来る限りの人員で積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワーク、平野区グループホーム連絡会に加入。サービスの質の向上、職員育成に向けて、各主催の勉強会、他事業所間・他事業所現場スタッフ同士の交流と意見交換の場にも出来る限りの人員で積極的に参加しており、実践ケアに活かせる様努力している。他事業所との協力連携の元、事業所見学や体験実習を試みている。他事業所の活動状況を目で見ることにより、自事業所のサービスを見直す機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて直接利用者の自宅へ出向き生活状態を把握できるように努めている。安心してご契約して頂ける様、ショートステイ体験入居を利用して頂いた上でご入居に至れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談を受けた際即、何かしらの対応をする様に心掛けている。当苑の空きが無く対応出来ない場合には連絡会のネットワークを利用して他事業所の情報を提供できる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際、本人と家族の真のニーズと、当サービス・当苑を利用されることが適切であるのかを照らし合わせてお話を進めていく様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『利用者は人生の大先輩』『主体は利用者』を念頭に置いている。利用者、職員の関係だけでなく、人対人、共に支え合える関係作りを目指している。『喜・楽』は勿論、『怒・哀』を生きる中で当り前の感情として捉え、不安や辛さへの理解と共感に努めている。利用者の生活歴に触れ、様々な方面で教えて頂く場面が多く、そういった場面設定支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来苑の際、利用者の様子や状況の変化、支援の取り組みについて報告している。ありのままの状況を伝え、ご家族に対して必要な協力を得られるように事前に報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や喫茶店へ通って頂いている。散歩がてら自らの家の花壇を整えに帰ったり、気になる戸締りや着替えを取りに帰ったり、ご自身の経営されていたお店へ出勤されるように通われる方もいらっしゃる。1人ひとりの人間関係や習慣が継続することが出来る支援をしている。	入居前からの友人や近所の方が遊びに来られる機会が多くあります。地域から入居されている方が多く、以前経営していたお店を見に行ったり、買い物やふれあい喫茶で知人に会い、思い出話をしてもらっています。また手紙や年賀状作成をレクリエーションに取り入れ、関係の継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士で過ごして頂ける様にハード面での工夫と場面作りに努め、それを遠くから見守る姿勢を実践している。ティタイム・食事時間を職員も共にし利用者間の会話を促すよう支援。毎朝夕の申し送り、カンファレンスで関わり様子や内容についてスタッフ間の連携と情報共有し、話題を保てるよう配慮している。		

グループホーム 成寿苑 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご転居先を訪ねたり、苑内のイベントにお誘いしたりご本人にとって、前居であった歴史と繋がりを大切に考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。コミュニケーションを通じて表情や会話の中から希望や意向を汲み取る様に努めている。センター方式活用を積極的に取り入れ、ご本人の思いを大切にしたいケアの方針立てている。	入居前に家庭訪問を行い、生活歴や嗜好、希望を聞いています。入居後の利用者の生活の希望は、利用者の立場に立って、普段の会話や行動を理解し、聴き取ったり見出すようにしています。アセスメントはセンター方式を使用し、その方の意向を含んだ言動を職員が一人ずつ記入しています。家族や利用者から拾い上げた意見は、カンファレンスで職員全員で話し合い、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の関わりで自身の語られる言葉の中から、また、家族の語り、互いの会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの生活リズムを把握できる様に努めている。日々の申し送りの中で身体面や病状の変化、精神的変調を伝え合い、経過を追いつながりながらケアをすすめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの中で現状を確認し、本人・家族からの情報とセンター方式を活用した情報を元にご本人の暮らしや思いに沿った課題をカンファレンスで意見交換し、介護計画に反映させている。課題を分析し、介護計画を作成、実施、見直ししている。	利用者ごとの支援キーワードを設定し、職員から実践について情報収集し、家族の意向や主治医からの指示も取り入れ、現状に合った介護計画になるようチームで取り組んでいます。計画作成担当者が毎月モニタリングを行っています。3~4か月に一度職員が新しいアセスメント表に作成し直し、カンファレンスで話し合い計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録がより生きいきと記すことができる様、本人が何をみてどんなことを感じるのか、本人が行動するきっかけと実際の行動をダイレクトに記すことができるセンター方式を採用し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	フリーという余裕のある人員配置により、より多くの要望に柔軟に対応している。その瞬間に感じた行動を制限しない支援に重点を置いて実践に努めている。一緒に生活している三匹の犬の存在も大きく、精神不安時に愛おしく犬を抱きしめ、安定を取り戻される様子や犬を相手にお話やお昼寝をされる様子、ボール投げで汗を流される様子もあり、人形やぬいぐるみでは感じて頂けない役割を担っている。		

グループホーム 成寿苑 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶の利用は頻度が高く、地域の祭りや催し事に積極的に参加し、地域に暮らす一員としての自覚を支援している。認知症勉強会なども参加して頂ける様に支援しており、近くの図書館を頻りに利用されていることなど地域資源活用を充実できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な緊急時体制を整え、取り組んでいる。	入居時に家族に説明し、納得を得て内科医はホームの協力医としていますが、以前のかかりつけ医や専門医への受診も可能です。他の医師への受診の際はホームでの身体状況を記入し、家族に持参してもらい、結果を聞いています。協力医は週1回の往診があり、24時間連携が取れ、薬剤師からは薬の説明を受けています。また訪問看護や訪問歯科も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/週、訪問看護師が来てくれる中、職員との連絡・連携にて日常の生活状況を把握した上健康管理とアドバイスをしてくれる。随時、主治医へ報告、連携を取ってくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の連携としても良い関係を保っている病院もある。入院でお世話になる医療機関は状況により定まっていないので新たにお世話になる病院との連絡、連携も努力している。入院先では担って頂けない事柄に関しては連携の下できる限りの協力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期だけでなく、病状に応じて、本人や家族の意向に伴い、主治医の治療方針と苑の方針とを話し合う機会を作っており、思いの共有に努めている。	入居時にホームの指針を説明し、最期を迎えたい場所を家族に聞いています。家族と職員の思いが同じで受け入れ条件が整えば、できるだけ利用者や家族の意向に添った支援をしていきたいと考えています。重度化が進んだ場合は、主治医より今後のリスクや方向性について家族に説明してもらい、職員間で体制について話し合い、不安を解消しながら前向きに取り組めるよう配慮しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を整備している。事業所内だけの訓練と考えず、隣家・地域住民の参加と協力を得ながら訓練を実施していきたいと考えているので近隣への誘いかけも努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練を2回/年実施しており、火災発生時の通報手順・避難経路・消火方法など全職員、全利用者参加の下訓練を行っている。事業所内だけの訓練と考えず、隣家・地域住民の参加と協力を得ながら訓練を実施している。	自主訓練と消防署立ち会いのもと、年2回避難訓練を行っています。自主訓練では夜間や最悪の状況を想定して行い、防災の意識を高めています。訓練の実施については運営推進会議で取り挙げ、地域の方に案内を配布し、近隣の方にも参加してもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスの度に個人の誇りや尊厳を損ねることのない対応を徹底できる意識向上を図っている。 個人情報取扱に関し、全職員に守秘義務等の周知徹底を図っている。	排泄介助の対応にはトイレのドアの開閉や、処理方法など細心の注意を払い、同性介助の希望を聞いたり、往診時に直接肌を診る際は個室で行ってもらうよう配慮しています。また個別の洗濯ハンガーを用意し希望者には下着の洗濯物は各居室に取り入れるなど様々な場面でプライバシーの確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主体は利用者にあることを日頃から念頭に置き支援している。表情での汲み取りに努め、自己決定できる場面を多く持ち、受容の姿勢と体制、選べる環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性が重視できる支援を心掛けている。今までの生活歴を尊重し、個人の生活を大切にしながら共同生活を営める様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き慣れた馴染みの美容室を利用されている。又、美容室側も苑の活動をご理解下さっている。女性であれば外出時には、化粧を施し、いつまでも女性である気持を持ち続ける支援、気分転換の支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備～後片付け迄を一連として考え、各々の力に添った役割を持ちながら食を楽しんで頂けることに努めている。	食材は業者より配達してもらっていますが、利用者メニューの希望を聞き、注文を適宜変更しています。食事の準備ができる利用者が多く、それぞれ下ごしらえや調理、配膳、片づけを男女問わず進んで行っています。食事は職員も同じものを同じ食卓で摂り、会話をしながら団樂の時間を楽しめるように配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況を記録している。状況の良し悪しを申し送り話し合い、情報として共有している。個別のバランスについても把握に努めている。体調や認識力、嚥下状況に応じて食べ易く、飲み込み易い形状を工夫している。 特に朝食のスタイルは各々の習慣の違いが大きくみられる。ここでも習慣継続と自己決定の場面として支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で義歯管理している方、すぐに紛失してしまう方等それぞれ個々の有する力に合わせた支援をしている。毎食後の歯磨き誘導・口腔ケア実施、毎晩の洗浄を促し支援を行なっている。歯科医との連携、口の中の健康と食事の楽しみに繋げている。		

グループホーム 成寿苑 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを探るため、排泄チェック表を付け、個々の排泄リズムの把握に努めている。排泄のサインや迷いをいち早く気づく事でおむつの使用や失敗をなるべく減らすことができ、トイレでの排泄が保てる様支援。皮膚トラブルを防ぐなどの利点や本人希望で布パンツをはき続けることが出来る様支援している。	車椅子の方も含め、日中は全員トイレで排泄してもらい、肌のトラブルを防ぐためにも基本的には布パンツを使用しています。排泄の後始末が自分で行えるように助言で対応したり、夜は安心や安眠の為ポータブルを置くなど、個々に合わせて自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の食事・水分摂取量、運動量、排泄の量・形状を比較し考え、働き掛けていける様、職員の意識とスキルの向上を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の思いや希望を最優先している。それ以外では、身体の皮膚状態の観察が必要な為、定期的な入浴の予定は立てているが、順番の希望を聞いたり、一日の予定の中に組み入れる支援をしたり、その他、個々のスタイルを保つ為の要望を柔軟に取り入れている。	今までの習慣や希望の時間を聞いて入浴してもらっています。毎日の入浴も可能で、最低週に2～3回は入ってもらえるように支援し、入浴の誘いを断られる方には声かけのタイミングを配慮して無理なく入ってもらっています。一人ずつ湯を入れ替えシャンプー等は個人別に用意し、入浴剤を使用したり、仲の良い利用者同士で入ってもらうなど、楽しい入浴時間になるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し生活リズムを整える様に努めているが一人ひとりの生活習慣を尊重し、各々の休息方法を取って頂ける様に支援している。不眠は精神面に大きく影響するので、睡眠の質と時間を申し送り合わせ確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の定期・臨時処方最新の薬情をファイル化し、使用している薬の目的や注意事項を全職員がいつでも見れ、理解しやすい状態にしている。医師から薬の変更や追加指示があれば、変更・追加理由と目的、回数と期間、注意事項を申し送り共有し誤薬や飲み落としのない様に努めている。又、投薬に変化を付けた方の経過状況を現場から直接医師へ報告し連携できる機会もある。薬剤師の先生にご協力頂き、用法等を詳しく説明して頂ける機会を作り、全職員に対し服薬管理の重要性を意識付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや車での遠出外出、外食や銭湯、女性でも顔剃りに理容室へ行くなどの個々の趣味・気分転換法趣味を取り入れ、レクリエーションの機会も作っている。三匹の犬とのふれあいや散歩で商店街を有意義に歩くなど気晴らしが出来る機会を図っている。生活動作の力に沿い、生活歴に合わせ、個々の得意な事で力を発揮できる役割を持てるよう支援している。役割が張り合いに成り、自信に繋がる支援を心掛けている。		

グループホーム 成寿苑 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までの生活の継続で思いついたときに行き慣れた店に買い物やお茶を飲みに行かれたり、図書館へ行かれたり、気軽に戸外へ出かけられる環境を作っている。花の季節にはお弁当を作り公園で広げたり、盆踊りや祭りに参加したり初詣参拝など季節を感じて頂ける支援を続けている。家族との散歩や外食にも気軽に出かけられる様子も日常的にあり、支援に取り組んでいる。	芝生の庭が広く、日常的に日光浴を行い、おやつや日用品の買い物、散歩など外出の機会を設けています。ふれあい喫茶や、図書館、大和川を見に行ったり、案内を出し、家族参加の花見や外食行事も取り入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は清算時の計算と支払の機会を持って頂いている。理解の力に応じて支出計算を日記に付け、管理して頂く様支援している。社会貢献できる自信を維持して頂きたいと考え、個々の持ち続けた能力を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の家族の受入れが可能な時間帯にはご自由にお電話を使用して頂ける様に支援している。利用者の希望に応じて年賀状や暑中見舞いなど季節の便りを支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの採光が良く、気候がわかりやすい。草花が多く、季節を感じ、五感に伝わることも多いと考える。季節ごとのイベントと共におやつや食べ物にも季節感に配慮している。庭を散歩し、花を摘み、それを食卓に飾るなど情緒深く感じる場面も多い。利用者の手作りの物や気に入った物を飾ったり、居心地易さに工夫している。	季節の花やトールペイントの飾りが玄関やリビング、テーブル等に飾られ、掃除が行き届き、清潔で明るく落ち着いた雰囲気作りがなされています。壁には行事の写真や似顔絵、誕生日の寄せ書きなどが掲示され、広いリビングに置かれた大きなソファで利用者同士がゆったりと寛げる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭先に椅子とテーブルを置き、独りで庭の散歩や腰を下ろし、緑に囲まれ過ごせる空間がある。玄関先でも心地よい風を受け静かに過ごす事が出来る。気の合った利用者同士で食事をしたりお茶を飲んだりできる工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、日用品を持ち込んで頂いている。あえて、新しいものは必要ではないことを伝え、説明している。	入居前に使っていた、家具や椅子、ぬいぐるみ、写真、暖簾、観葉植物など、できるだけ多く家からもってきてもらい、その人らしく居心地よく過ごせる配慮をしています。温かい雰囲気の木目調のタンスは備え付けで、ベッドは家庭からの持ち込みですが、希望があれば身体状況に応じたものをホームが手配しています。居室の入り口には職員と利用者が作った表札をかけ目印にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	記憶の交差など混乱が見られた場合、問題点に着目し、混乱が軽減するような支援を勧察している。ゆっくりと説明、何度でも説明、わかりやすい表示など実施している。成功体験を実感し自信を持ち続けることが出来る様支援している。		